

主 文

原判決及び第一審判決を破棄する。

被告人を、第一審判決別表第一の（一）（二）及び同別表第二の（一）乃至（一六）の事実につき懲役一月に、同別表第一の（八）、（一〇）乃至（一二）及び同別表第二の（一七）乃至（二四）の事実につき懲役二月に処する。

押収にかかる精米の換価代金四千五百六十五円を没収する。

本件公訴事実中、雑穀のみを輸送した事実（第一審判決別表第一の（三）乃至（七）及び（九）の事実）について、被告人を免訴する。

理 由

本件公訴事実中、主文末項に掲げた事實は、昭和二七年政令第一一七号大赦令一条八六号にあたるので、刑訴四一条五号、四一条但書、三三七条三号により、原判決及び第一審判決を破棄し、右事実については免訴の言渡をしなければならない。

弁護人鈴木俊蔵の上告趣意は、刑訴四〇五条の上告理由にあたらない。

よつて、第一審判決の確定した、前掲大赦にあたる事実以外の各事実につき、食糧管理法九条一項、三一条、同法施行令一条、同法施行規則四七条（なお昭和二二年一二月農林省告示第一九六号）を適用し、以上のうち、第一審判決の摘示する確定判決の確定前のものにつき、刑法四五条後段、五〇条、四七条、一〇条、その確定後のものにつき、同法四五条前段、四七条、一〇条を適用して、それぞれ主文のように刑を定め、なお同法一九条により、裁判官全員一致の意見で、主文のとおり判決する。

検察官 吉河光貞出席。

昭和二七年十一月二一日

最高裁判所第二小法廷

裁判長	裁判官	霜	山	精	一
	裁判官	栗	山		茂
	裁判官	小	谷	勝	重
	裁判官	藤	田	八	郎
	裁判官	谷	村	唯	一 郎